

IB COORDINATOR NEWS

～SPECIAL EVENT～

福嶋校長&キャロルシニアディレクター対談



古市MYPコーディネーター（以下「C」）：今日は、このIBコーディネーターニュースの特別企画対談のためにお時間を頂きましてありがとうございます。私がテーマを述べますので、それに基づいて、お二人に対談していただこうと思います。よろしくお願いします。

広島叡智学園のアイデンティティについて

C：まず、お二人が本校に着任し、1か月が過ぎた今、改めて、本校のアイデンティティはどのようなものであると考えていますか。

福嶋校長（以下「P」）：私は、本校の設置検討・準備の段階では広島県教育委員会事務局において、そして、この4月からは、実際に学校の中から、本校の使命やアイデンティティについて考えてきました。本校では、子供たちが、たくさんの課題に取り組みながら、思考を深め、自分の意見をしっかりと伝えることができる学びを実践していくこととしています。これまでの日本の学習指導要領に基づく学びに加えて、IB（国際バカロレア）教育の手法を活用し、生徒が主体的に学べる機会を提供していくことが、私たちのアイデンティティになると考えています。

キャロルシニアディレクター（以下「SD」）：私も、着任する前から、素晴らしいポテンシャルを持つ学校が、広島県に開校されたと認識していました。そして、幸運にも、本校のシニアディレクターとして着任することができ、改めて、その大きな可能性に魅力を感じています。ここで働くすべての教職員が、新しい取組に意欲的に挑戦し、学校はエネルギーで満ち溢れています。生徒の皆さんとは、残念ながら、まだ少ししか関わることができていませんが、モチベーションが非常に高く、今後が楽しみです。

また、福嶋校長と同様に、日本の学習指導要領の内容が時代遅れだとは思っていません。むしろ、日本人としてのアイデンティティを育む上でも、とても重要だと考えています。日本の学習指導要領

とIB教育を、相互に補完し合いながら学びを深めていくことができる独自の教育プログラムを実践することが、本校のアイデンティティに繋がると思います。



広島叡智学園でのIB教育について

C：本校において、IBはどのような役割を果たすでしょうか。



SD：IB教育は、いわゆるエリートだけのためにあるのではなく、学習することに責任を持つすべての学習者のための教育プログラムです。私の個人的な意見としては、IB教育は、すべての人に適していると思います。一方で、これまでの伝統的な教育も、子供たちに知識を伝達する上で重要です。これに加えて、21世紀型の教育

では、子供たちが、メタ認知を働かせながら、批判的・創造的スキルを發揮し、学ぶことが大切となります。IB教育は、この部分で、本校においても大きな役割を果たすはずで

P：そのとおりだと思います。キャロルさんには、IB教育についてのこれまでの経験や研究成果を生かし、本校のIBチームを率いて、様々な取組を推進してもらいたいと考えています。

今後の取組について

C：最後に、特に今年度において、力を入れて取り組みたいことを教えてください。

P：取り組みたいことはたくさんありますが、特に今年度は、進路指導に力を入れたいと考えています。今はまだ、国外の有名大学など、大学名をもとに進路を考えている生徒たちが、自分が将来やりたいことを見つけ、そこから逆算した現実的な進路選択ができるように、しっかりとサポートすることが、私たちの大切な仕事の一つです。そのための準備を、より一層の力を入れて、進めていく必要があると考えています。

SD：私は、本校の言語教育をさらに発展させたいと考えています。一つ強調しておきたいことは、英語を話せることが良いのではなく、二つの言語－多くの日本人にとっては日本語と英語－を理解できることが素晴らしいのだ、ということです。私たちは、生徒が、二つの言語をバランス良く発展させていけるよう、言語教育プログラムを構築していきます。

C：本校のリーダーとしてお二人をお迎えし、とても心強いです。本日はありがとうございました。

